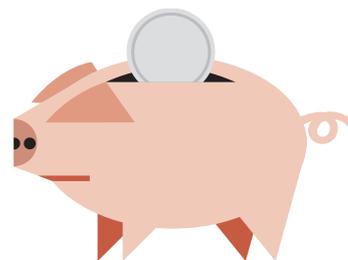


市には貯金がどれくらいあるの？

もしものときのために…

市では、もしものときの備えや特別な用途に使うことを目的に、19の基金等を積み立てています。このうち、台所事情が苦しいときに使うことができる基金等は、財政調整基金、減債基金の一部、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の3種類であり、市がもしものときに使うことができる貯金にあたります。平成22年度末における3つの基金等の残高は、合計で12億 567万円となっています。

基金等名	平成22年度末残高
財政調整基金	6億3,466万円
減債基金の一部	3,676万円
北海道市町村備荒資金組合超過納付金	5億3,425万円
合計	12億 567万円



貯金のほかに使えるのは…

また、平成22年度の各会計の黒字額のうち、一般会計の黒字は、平成23年度のやりくりに使えます。これは、基金が貯金に例えられるのに対し、会社でいうところの運転資金に当たるものです。

ただし、一般会計の黒字額の一部は、次年度に繰り越した事業に使うことがすでに決められているので、これを除いた、6億6,037万円が、平成23年度のやりくりに使えるお金となります。



	収支額 (黒字額)	繰越事業財源 (平成23年度に 使い道が決まっ ているお金)	実質的な収支額 (実際の黒字額)
一般会計収支額 (黒字額)	7億3,041万円	7,004万円	6億6,037万円

これで安心？

もしものときに使える3つの基金等の残高、平成23年度のやりくりに使える実際の黒字額の合計は、18億6,604万円です。

これが、市の貯金の総額であり、平成23年度以降の財政運営で、市がやりくりに使えるお金です。

しかし、平成23年度の当初予算では、市がやりくりに使えるこれらのお金から、合計6億9,000万円を崩して使うことにしていますので、同じペースで使い続けると、約3年間で使い切ってしまうことになるので、市の貯金は、決して多いとは言えません。

3つの基金等の残高 (平成22年度)	12億 567万円
一般会計の実際の黒字額	6億6,037万円
合計	18億6,604万円

